慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	The operant behavioral approach in the analysis of drug effects
Sub Title	オペラント行動による薬物効果の分析
Author	安東, 潔(Ando, Kiyoshi)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1981
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.21 (1981.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学事報告 : 学位授与者氏名及び論文題目 : 博士
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069 57X-00000021-0098

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学事報告

学位授与者氏名および論文題目

修　士（昭和55年３月）

社会学修士（社会学専攻のもの）

第386号　出口　裕啓　言語的対立からみた少数民族問題　―理論的考察とカナダ・ケベックの事例―

第387号　秋元真理子　消費者イノベーターの研究　―主婦のライフスタイル調査による分析結果―

第388号　新井　正明　家族国家論

第389号　稲生由美子　生活の質評価手法に関する考察

第390号　国府田文則　大都市圏周辺都市をめぐる人口移動とその地域構造の研究　―草加市における暫居域の析出の試み―

第391号　鈴木　秀一　理解社会学と西欧ニヒリズム　―M・ヴェーバーの科学論―

第392号　長尾　真理　「批判社会学」序説　―J・ハバーマスのコミュニケーション理論をめぐって―

第393号　西河　正行　わが国大学組織における学生の『自我同一性確立過程』の長期的追跡研究について

第394号　藤本みどり　Lourdes の巡礼　―その制度化を中心として―

第395号　村上　綱実　倫理的要素と社会秩序

第396号　吉沢　夏子　A・シュッツの生活世界の構成　―関連性構造と行為における未来志向―

文学修士（心理学専攻のもの）

第397号　菅野理樹夫　OSA―UCSにおける色差と色調成分の検討

第398号　渡辺　利夫　前額平行面における平行並木と距離並木

第399号　久東　光代　言語生成過程にみる認識構造の発達的考察（作文の分析を中心として）

第400号　三原　光雄　デンショバトにおける心拍条件づけの両眼間転移

教育学修士（教育学専攻のもの）

第401号　森野　　衛　初期ニーチェ思想における教養の概念

第402号　東　　敏徳　「こども論」研究

第403号　坂上　道子　善さ判断と利他的動機

第404号　島倉　吉子　小学校児童における学習障害について

第405号　藤田　俊一　エソロジーについての考察

第406号　山本　　丘　ヒトにおける概念とその心的表象形式　―発生的アプローチへの試論―

第407号　米山　光儀　タカクラ・テルと自由大学運動　―上田自由大学を中心として―

博士（甲）

文学博士

第609号　安東　　潔　（55年９月30日）
慶應義塾大学大学院社会学研究科
（昭和13年４月１日生）

The Operant Behavioral Approach in the Analysis of Drug Effects

（オペラント行動による薬物効果分析）

〔論文審査担当者〕

主　査　小川　　隆
（慶應義塾大学文学部教授　大学院社会学研究科委員　文学博士）

副　査　佐藤方哉
（慶應義塾大学文学部教授　大学院社会学研究科委員　文学博士）

副　査　小谷津孝明
（慶應義塾大学文学部助教授　文学博士）

〔論文審査の要旨〕

実験的行動分析を薬物効果，薬物弁別の研究に応用する試みは近来，米国を中心に世界的に拡げられた趨勢であるが，わが国では未だ途についたばかりで，研究論文も僅である。本論文はわが国ではじめて斯方面の実験的研究を組織的に行ったものである。

論文は四部からなり，その構成はⅠ　序論，Ⅱ　強化スケジュール下の行動に及す薬物効果の実験，Ⅲ　刺激性制御による薬物弁別の実験，Ⅳ　一般論議である。

Ⅰでは，精神薬理学が近来，向精神薬などの多くの発見によって新しい局面を迎え，オペラント条件づけによる行動の分析（実験的行動分析）という新しい手法の導入によって行動薬理学として展開した所以が概括されている。また，Ⅱ，Ⅲで行う実験計画の概略と用いられる薬物の薬理的特性が述べられている。

Ⅱではラットを被験体とし，向精神薬の効果を調べる上に有効な強化スケジュールとして想定されたＤＲＬスケジュールの一般な吟味実験が先立ってなされたが，オペラント行動の獲得過程を分析した結果，ＤＲＬ20″が，反応間時隔（ＩＲＴ），反応率，強化率の指標から検討して，比較的短期間の訓練で安定した基本線に到達することが示された。そこでＤＲＬ 20″ スケジュール下の行動が15種にわたる向精神薬の投与によって，それぞれどのような影響をうけるかが比較実験されたが，amphetamin などの中枢神経興奮薬により反応率の上昇，IRT 分布の頂点の短縮が，diazepam などの抗不安薬によりＩＲＴ分布幅の増大がみられた。以上の結果からＤＲＬ 20″ スケジュール下の行動が薬物によって特徴的な影響をうけることが明にされた。

Ⅲではラットを被験体とし単一レバー押しの場合とアカゲザルを被験体とし一対レバー選択押しの場合とにつき刺激性制御による薬物弁制の実験がなされた。薬物の静脈内投与という新しい手法により，amphetamine 投与後のラットの反応を強化，生理食塩水投与後の反応を消去した結果，amphetamine 投与後の反応率は上昇し，生理食塩水投与後の反応率は低下することとなり，弁別刺激として薬物が刺激性制御の機能を果すことが明となった。同様の手法により ethylalcohol と生理食塩水との間にもオペラント弁別の成立が確められた。次で一対レバーのアカゲザルの選択反応の実験に入り，一方のレバー押しは cocaine の静脈内投与，他方のレバー押しは生理食塩水投与によって刺激性制御の事実を確めた。これらのサルに morphine, amphetamine などの薬物を投与して般化テストを行った結果，これらの薬物に対しては cocaine 側のレバー押しが，これに対し chlorpromazine, pentobarbital-Na, ethylalcohol, LSD-25 などを投与した場合は生理食塩水側のレバー押しがなされた。これによってそれぞれの薬物か弁別刺激特性の上で cocaine に類似しているか否かを決定し得ることが明らかとなった。

Ⅳでは以上の実験的研究につき，それぞれの方法の特徴と制限とを比較考察し乍ら，薬物効果，薬物弁別を調べる上に，ＤＲＬスケジュール，刺激性制御下のオペラント行動が安定した基本線となり，有効な機能を果すことが概括されている。

本論文は各種向精神薬について実験的行動分析による行動薬理学的研究を行い，斯方面に新な成果を加えたばかりでなく，薬物効果，薬物弁別を通じて実験的行動分析の諸手法を比較・考察する上に貴重な資料を提供し，弁別オペラントの研究に多くの示唆を与えている．今後追及さるべき未解決の問題を残しているとはいえ，本研究の意義は高く評価されるものといえる。著者は本論文によって文学博士の称号を受けるに適格と認める。

文学博士

第 610 号　河嶋　孝　(55年 9 月30日)

(昭和12年 1 月19日生)

パヴロフ型条件づけとオペラント条件づけの交互作用に関する研究

〔論文審査担当者〕

主　査　　小　川　　隆

(慶應義塾大学文学部教授　大学院社会学研究科委員　文学博士)

副　査　　佐　藤　方　哉

(慶應義塾大学文学部教授　大学院社会学研究科委員　文学博士)

副　査　　小谷津　孝　明

(慶應義塾大学文学部助教授　文学博士)

〔論文審査の要旨〕

オペラント条件づけの成分としてパヴロフ型条件づけが働くという分析は，回避訓練の実験に沿って検討されて来たが，近来，報酬訓練の実験についてもとり上げられている。回避訓練では刺激―反応，強化―反応の間の反応の差異が問題であったが，報酬訓練では，反応―強